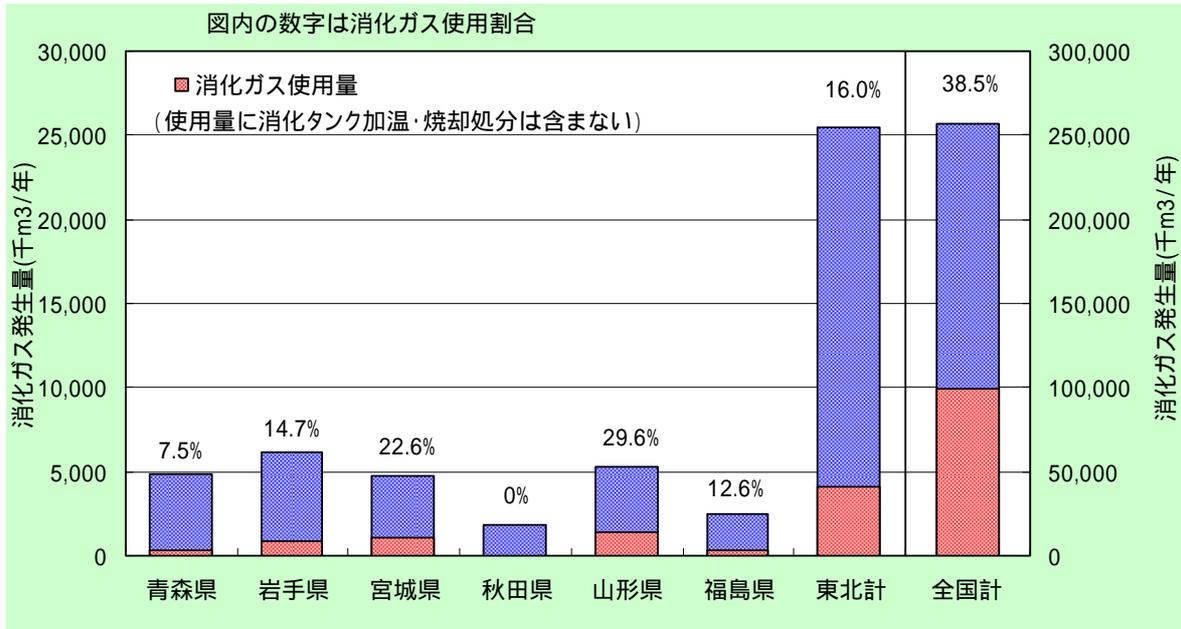


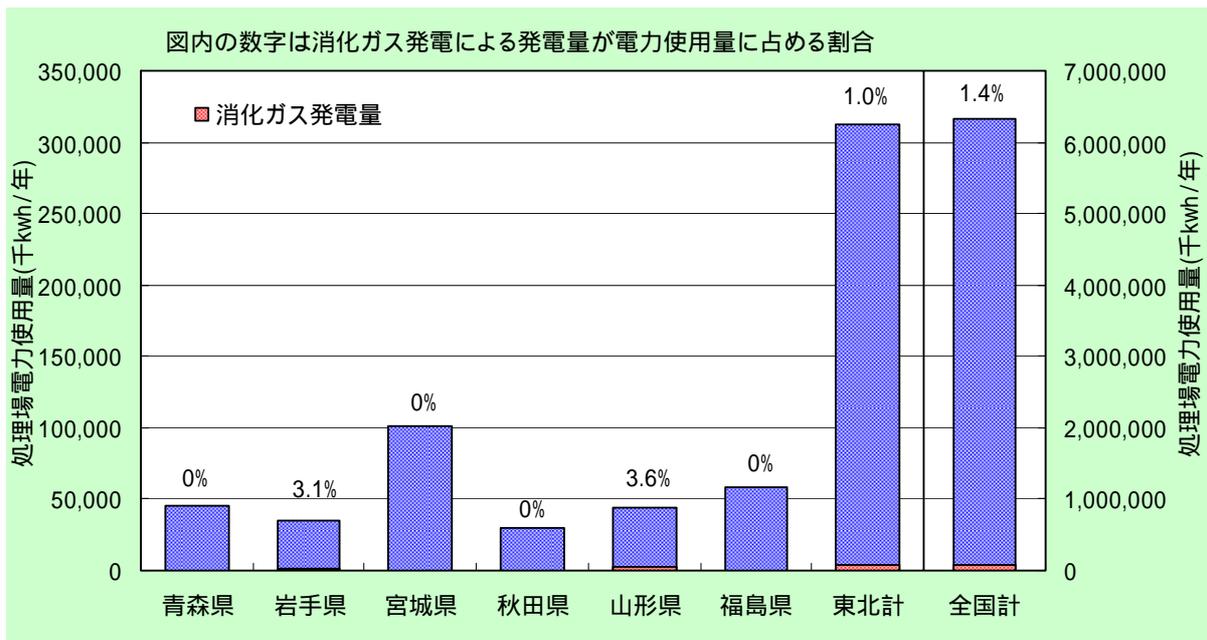
下水道事業では、電力、燃料（石油、ガス）等のエネルギー消費過程や施設の運転に伴う各処理プロセス等で温室効果ガスの排出が見込まれるため、地球温暖化対策について検討することが重要です。

下水汚泥は、バイオマスエネルギーとして高いポテンシャルを有していることから、代替エネルギーとして利用することは温室効果ガスの抑制効果が高いため、東北地方では、汚泥消化により発生する消化ガスを熱利用するとともに、消化ガス発電や燃料電池（例：山形市）等を採用し地球環境対策に取り組み始めています。



各県における消化ガスの熱利用等への使用割合（平成17年度）

資料：東北地方整備局データ



各県における消化ガス発電量（平成16年度）

資料：平成16年度版下水道統計